地域ニュース

▶神戸総局
〒650－0015
神戸市中央区多聞通
4－1－5
TEL078（351）1771
FAX078（361）3001

日曜日は近畿の話題も
日曜日付の地域ニュース面では、題字を「近畿（兵庫）」に変更し、近畿の他府県の話題も紹介します。

ひょうごの宝

人を冤罪から守る「真実証明器」

「実は嘘発見器ではなく、無罪の人を冤罪（えんざい）から守る〝真実証明器〟なんです」。関西国際大心理学部の中山誠教授（65）は警察捜査に用いる「ポリグラフ検査」の有用性をこう説明する。27年間の静岡県警科学捜査研究所での経験を生かし、現在、同大で捜査心理学や神経・生理心理学の講義を担当。テロ事件の実施計画の事前検出といった先進研究にも取り組む。

人の心に興味を持ち始めたのは中学時代。川端康成ら文学作品に影響を受け自ら小説を書くようになった。創作活動を通じ「顔色が変わるなどの心理描写が本当か疑問に思った」。

答えを求め、関西学院大文学部心理学科へ。ただ「見栄を張ったり適当に答えたりできる質問紙調査は信用できない」と神経・生理心理学を専攻。「心電図や脳波など生理指標は自分の意志では変えられずごまかせない」と話す。

科捜研では静岡県内で起きる全ての重要特異事件に関わり、ほぼ1人でポリグラフを担当。現場主義が信条で、事件が起きればすぐに現場へ駆けつけ発生後まもない状況を確認した。犯行が昼か夜かでも犯人の目に映る光景は異なるためだ。

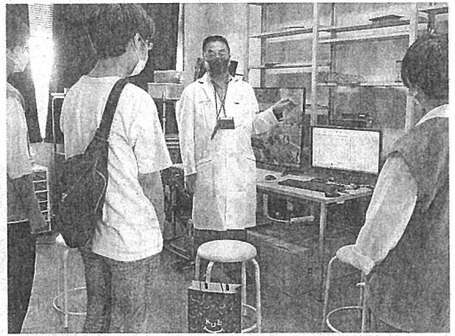
例えば絞殺事件の容疑者をポリグラフにかける際、「首を絞めて殺したか」とは尋ねない。代わりに首を絞めるのに使ったのは▽タオル▽電気コード▽ネクタイーなどと具体的に設問する。犯人だけが知る正解が設問に含まれていれば皮膚コンダクタンス（冷や汗のような成分）は明確に変化し心拍数が低下する。

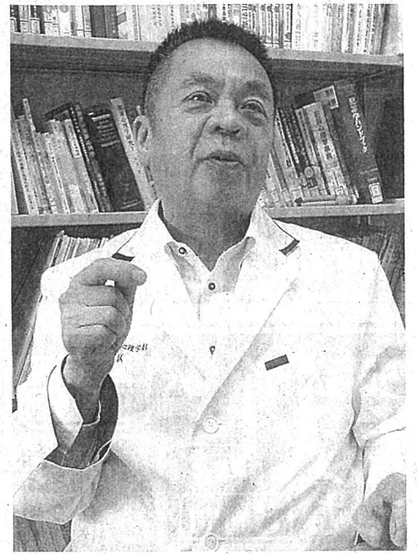
反応の出方は「質問の構成で決まる」といい「冤罪のメカニズムは見込み捜査と長時間の取り調べと、科学的な証拠不足。無罪の人をフォールスポジティブ（偽陽性）から守るのがわれわれの役目だ」と力を込める。

科捜研在任中に44歳で博士号を取得した後、関西国際大教授へと転身した。「基礎研究に戻り、社会全体に貢献したい気持ちが強くなった」と振り返る一方で、「所属長になると決裁ばかりで現場に行けなくなるだろ」と豪快に笑う。

究極の目標は、人の心のメカニズムを解き明かすことだ。最近では、興味のある映画のシーンを見たり、仮想現実（VR）のゲームをしたり、感動で涙を流したりすると、どんな生理的変化が起きるか実験心理学的な研究を続けている。ただ感情と生理的な反応の関連性は分からないことも多い。反応の出方は個人差がありパーソナリティーによっても異なるからだ。「人間はもっと総合的な存在」。そう語る表情には人間の心理への飽くなき好奇心が宿っていた。

（吉国在）


オープンキャンパスで訪れた学生に心理学実験について説明する中山誠教授（関西国際大提供）



関西国際大心理学部教授
中山誠さん（65）

なかやま・まこと　昭和32年、京都市生まれ。関西学院大院文学研究科心理学専攻修士課程を修了し、57年4月、静岡県警採用。科学捜査研究所心理科長在任中の平成13年に博士号を取得し、21年4月、関西国際大心理学部教授に。趣味はカメラ。スポーツ写真を撮影し「仕事と違って偶然性に委ねてバシャバシャとシャッターを切る」という。